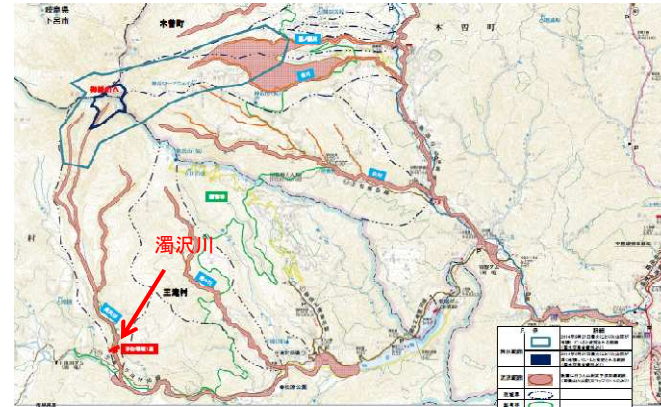


(様式2)新規評価シート

建設部 砂防課

事業名		砂防(火山砂防)		路河川名等	濁沢川					
事業毎の通番		2	市町村名	王滝村	箇所名(ふりがな)	柳ヶ瀬(やながせ)				
事業概要	事業目的	H26.9.27の御嶽山の噴火に伴い、本溪流の上流域に火山灰が堆積しており、次期降雨時に降灰の影響による土石流の発生が懸念されている。そのため、砂防堰堤を設置し土砂災害の防止を図る。								
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 地域防災力の向上(災害に強い地域づくり)		事業実施の根拠法令等	砂防法					
	関連する事業、計画等	上流部は治山事業で整備を実施								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	保全対象 人家8戸、橋梁5基、物資輸送拠点、村道								
	着手年度	H27	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	完成年度(見込み)	H30	費用対効果	8.2		国庫	その他	県債	一般財源	
	全体事業内容(主な工種)	砂防堰堤 1基			400,000	220,000		162,000	18,000	
	年度事業内容(主な工種)	調査・設計一式			40,000	22,000		16,200	1,800	
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	土石流災害から、人家8戸、橋梁5基、物資輸送拠点、村道等を保全							
		間接的効果(定量的・定性的)								
評価の視点	必要性	【保全人家戸数】8戸 【保全公共施設】物資輸送拠点、村道							評価	
									B	
	重要性	【災害履歴】昭和59年9月長野県西部地震により大規模な斜面崩壊発生、平成26年9月御嶽山噴火 【交通影響】村道(滝越地区が孤立化の恐れあり) 【位置付け】なし							評価	
									A	
	効率性	【費用対効果】8.2 【早期効果発現】事業期間:4年間 【工法等比較検討】堰堤配置、形式等について比較検討 【総合調整】国有林・治山事業と調整中							評価	
									A	
緊急性	【地形地質】火山岩 大規模な山腹崩壊あり、火山灰の堆積あり 【流域植生】なし 【平均渓床勾配・土砂整備率】勾配:約2° ・整備率:50%以上 【危険地区】指定なし							評価		
								B		
計画熟度	【情報共有】関係者以外にも周知 【地域要望】H26.9御嶽山噴火以降積極的な取り組みがある 【地域合意】事業目的については合意形成が図られている 【住民参加】避難体制が確立している							評価		
								A		
部意見	当該溪流は、噴火に伴う降灰により、火山灰が堆積しており、速やかな土砂災害対策が必要である。	行政改革課意見	下流には、村道があり交通遮断した場合は、集落が孤立す恐れがあることから、重要性が認められる。	評価結果	総合評価					
				○	A					

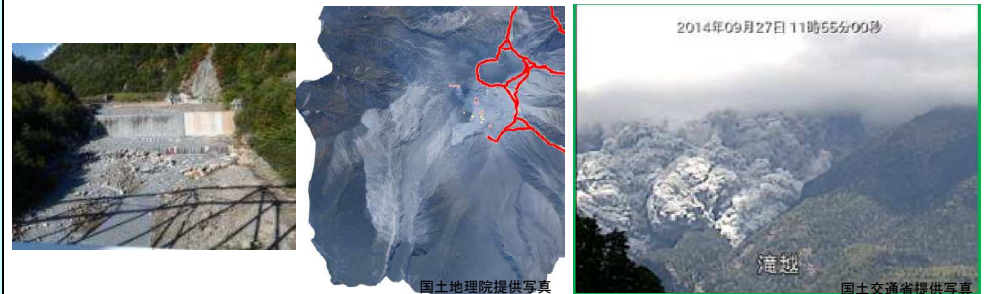
【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】

濁沢川上流域の状況



事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	S59.9.14に発生した長野県西部地震では、御嶽山山麓で大規模な山腹崩落が発生、それに伴う大規模な土石流により、王滝川沿川の住民に甚大な被害が生じ、砂防堰堤の整備を実施した経過がある。また平成26年9月27日に発生した御嶽山の噴火は、戦後最大の被害をもたらすとともに、周辺住民の生活にも大きな影響を与えており、二次災害防止対策が望まれている。	
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	H26.9の御嶽山噴火に伴う降灰の影響による土砂災害が懸念されることから、早期対策実施が望まれている。	
③事業説明等の経緯	H16年度に木曾町、王滝村の住民に「御嶽山火山マップ」を配布し、火山活動に伴う泥流対策等呼びかけている。	
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	上流部は治山事業により整備を実施しており、引き続き連携を図りながら事業を実施する。	
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	周辺環境への影響を抑えることを念頭に設計・工法等比較検討を行う予定である。	
⑥地域活性化への影響と配慮	御嶽山噴火により、観光等地域経済に大きな影響を与えているため、早期に土砂災害対策を進め、安全と安全の確保を図り、地域経済の活性化を図る必要がある。	
⑦その他	砂防指定地済み	
	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 35° 48' 22" 東経:E 137° 28' 50"